

みようきいけ
妙亀池

「妙亀池」は、粕壁字浜川戸の西端と新方袋との境付近にあった池であるが、今はその跡かたもない。

それは西部第三土地区画整理事業により埋没してしまったからでそれまでは旧古隅田川ぞいにあつた江曾堤（または蝦夷堤）下に、梅若丸の伝説に因む池跡と伝えられた円形の田があつた。この田は古隅田川の溢水によって深く掘られた大きな池の跡ではないかと思われる。

昔、この辺りは海の退化によって川が複雑に濫流していた時代があつて、現在の古隅田川も湿地帯の多い川幅の広い流れであつたが、今は狭い川となつてしまつてゐる。

「妙亀池」は前述のとおり古隅田川の氾濫によって出現した俗に「オツポリ」と言われる池であつた。この池には梅若丸の母、吉田の少将惟房卿の妻花子の前が入水した池であるとの伝説がある。

今より凡そ千年前の天延三年（九七五年）の頃、愛児梅若丸が人買いにつれ去られたことを知つた花子の前は、その行方を尋ねてはるばると東国に下つた当地に来て、ふと念仏の声を聞き里

人に問うたところ、梅若丸の一周忌をとむらう念仏であるとのことであった。そして、花子の前は、我が子梅若丸の悲しい最後のありさまを聞かせられ、僧祐閑ゆうかんのもとで薙髪ちはつして尼となり名を妙亀と改め、小堂を営み梅若丸の守り本尊である地藏を安置し、その菩提を弔った。

天延五年（九七七年）のある時妙亀尼は、新方と春日部との境にある一本杉のもとにある池で都鳥のむつまじく遊ぶ姿を見て

「くみしりて あわれとおもへ 都鳥 子にすてられし 母の心を」

と詠じた。するとこの池の上に梅若丸の姿が現れたので、妙亀尼はおもわず池に飛び入りて亡くなったと伝えられている。

里人はあわれに思い、この池をそれより「鏡カ池」または「妙亀池」と呼んで、このことを後世に語り継いできた。

初出「広報かすかべ 昭和五十二年三月号」市史編さん室だより